

『創造的IT人材育成方針』の推進にかかる基本調査」の委託内容

調査の背景と調査委託内容：平成25年12月に「創造的IT人材育成方針（PEOPLE）」をとりまとめ、今後速やかに実行に移すこととしている。この「育成方針」の実行に際し、具体的な政策立案を行うために、ベースラインとなる定量的かつ具体的な状況・実態把握が必要不可欠になっていると認識。

人材育成分科会として取りまとめた「育成方針」の実現に向け、具体的施策の検討、形成、活動推進に寄与していくために下記調査を委託：

1. 人材育成・成長支援につながる活動状況として、
「コンテスト・イベントなどに関する実施状況」
2. 国民全体のIT利活用力、産業界・経済界のIT不足人材（質・量）として、「国民全体のITの利活用力、IT人材に関する実態」
3. 人材育成活動を測る指標（KPI）と数値算出方法として、
「KPIと評価手法の現状」

委託業者：日鉄住金総研株式会社

委託期間：2014年10月14日 ～ 2015年3月20日（報告書提出）

「創造的IT人材育成方針」の 推進にかかる基本調査 進捗報告

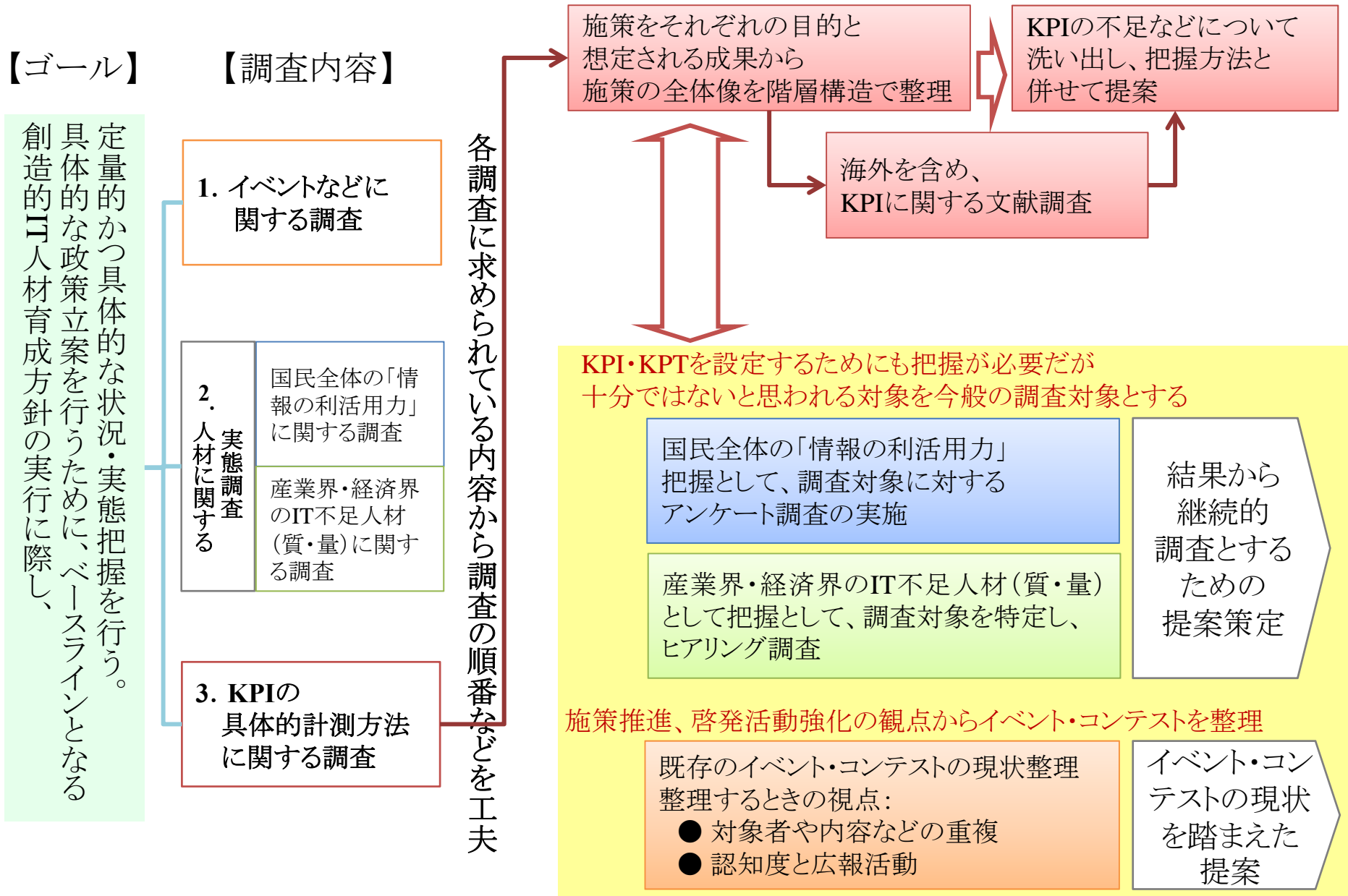
平成27年1月13日

日鉄住金総研株式会社

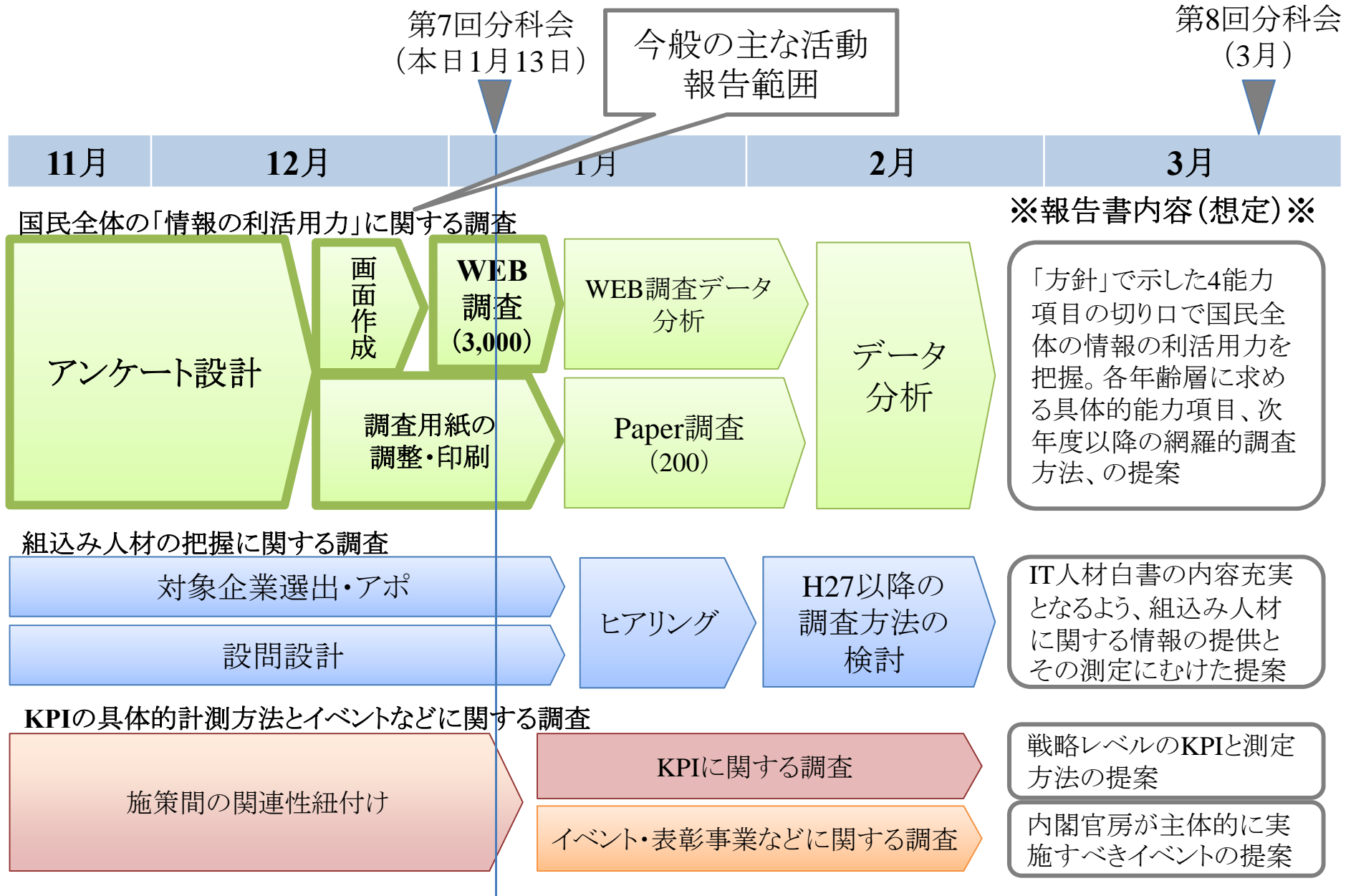
本日の報告内容

- 1.基本調査の全体像
- 2.スケジュール概要
- 3.課題認識と調査対象
- 4.国民全体の「情報の利活用力」に関する調査
- 5.今後の活動

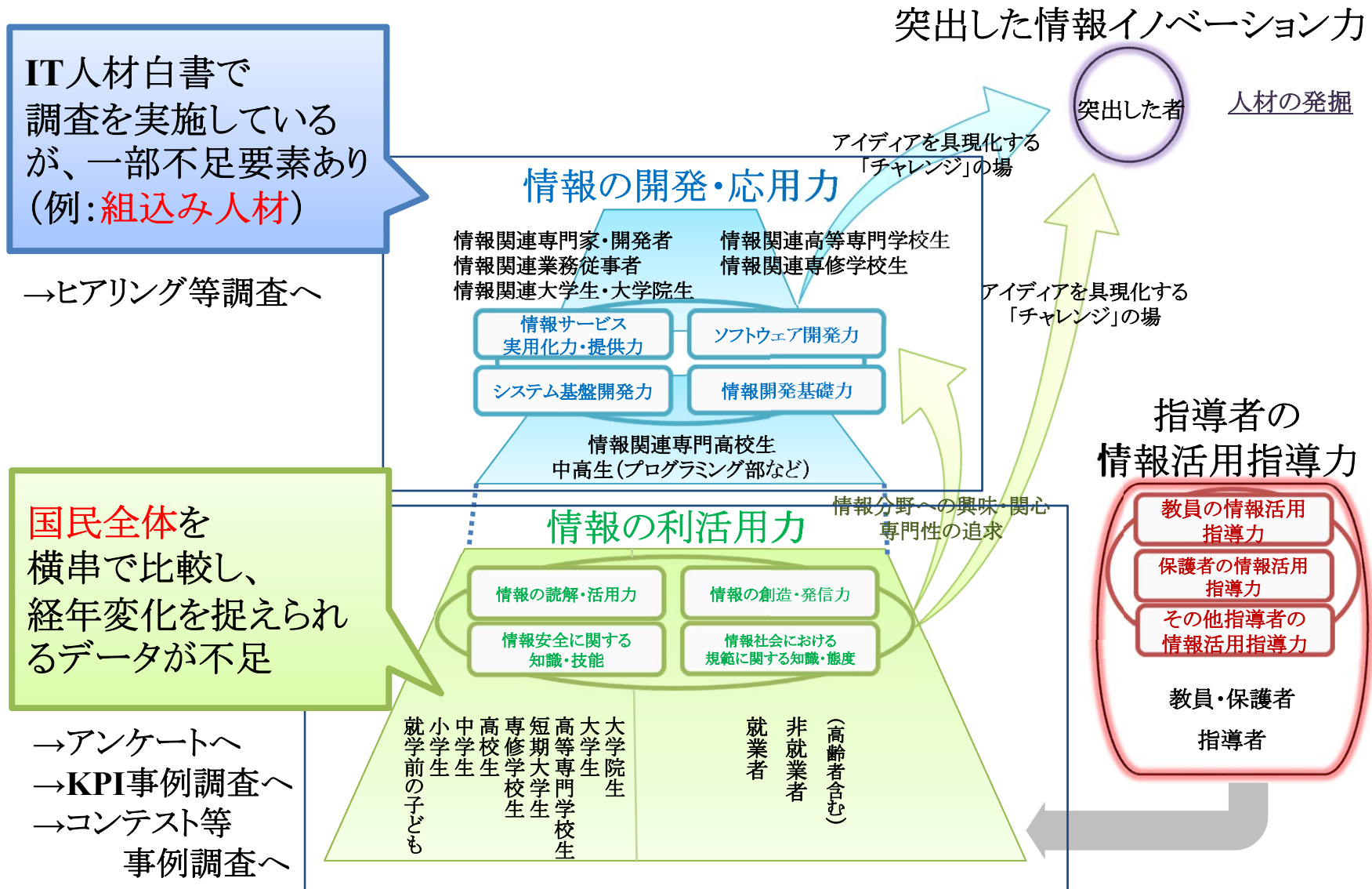
1.調査のアプローチ(全体像)



2.スケジュール概要

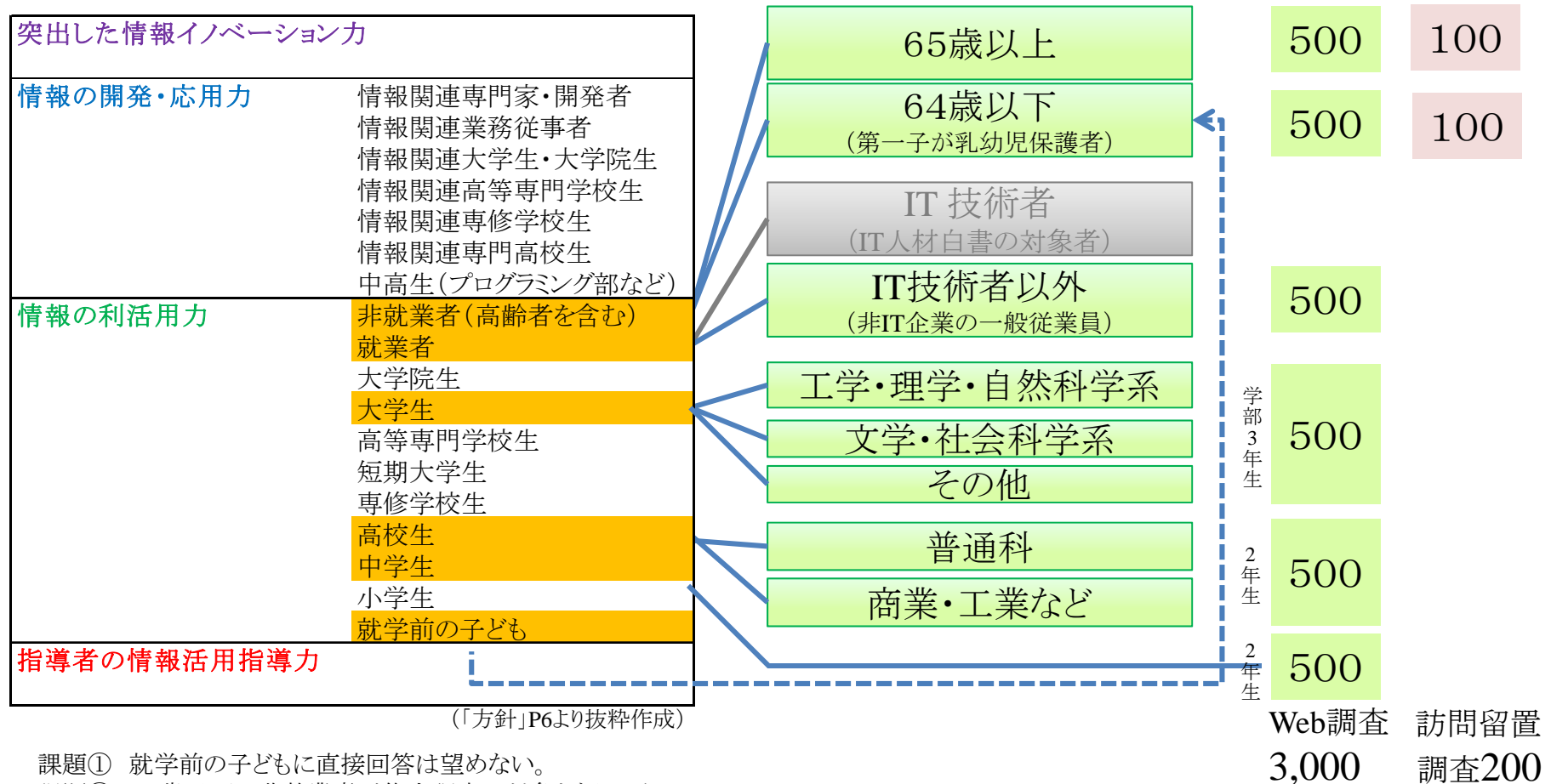


3.課題認識と調査対象



4.国民全体の「情報の利活用力」に関する調査

①対象者選定



課題① 就学前の子どもに直接回答は望めない。

課題② 64歳以下の非就業者が能力調査の対象となりにくい。

【対応策】 「就学前の子ども」=対象となる子どもの保護者へのアンケートとし、同時に、回答者の条件を非就業者に限定する。

※ 第一子が小学校就学前の保護者かつ非就業者でカバーする。

課題③ 学生、生徒を「方針」のピラミッドが示すとおり細かく区切って調査すると1つの層に対する分母が少なくなり、分析に堪えない。

【対応策】 中学2年生、高校2年生、大学3年生に限定する。

小学生ではなく中学生とする理由は、少なからず義務教育終了時点で社会で求められる基本を持つ必要があるため。

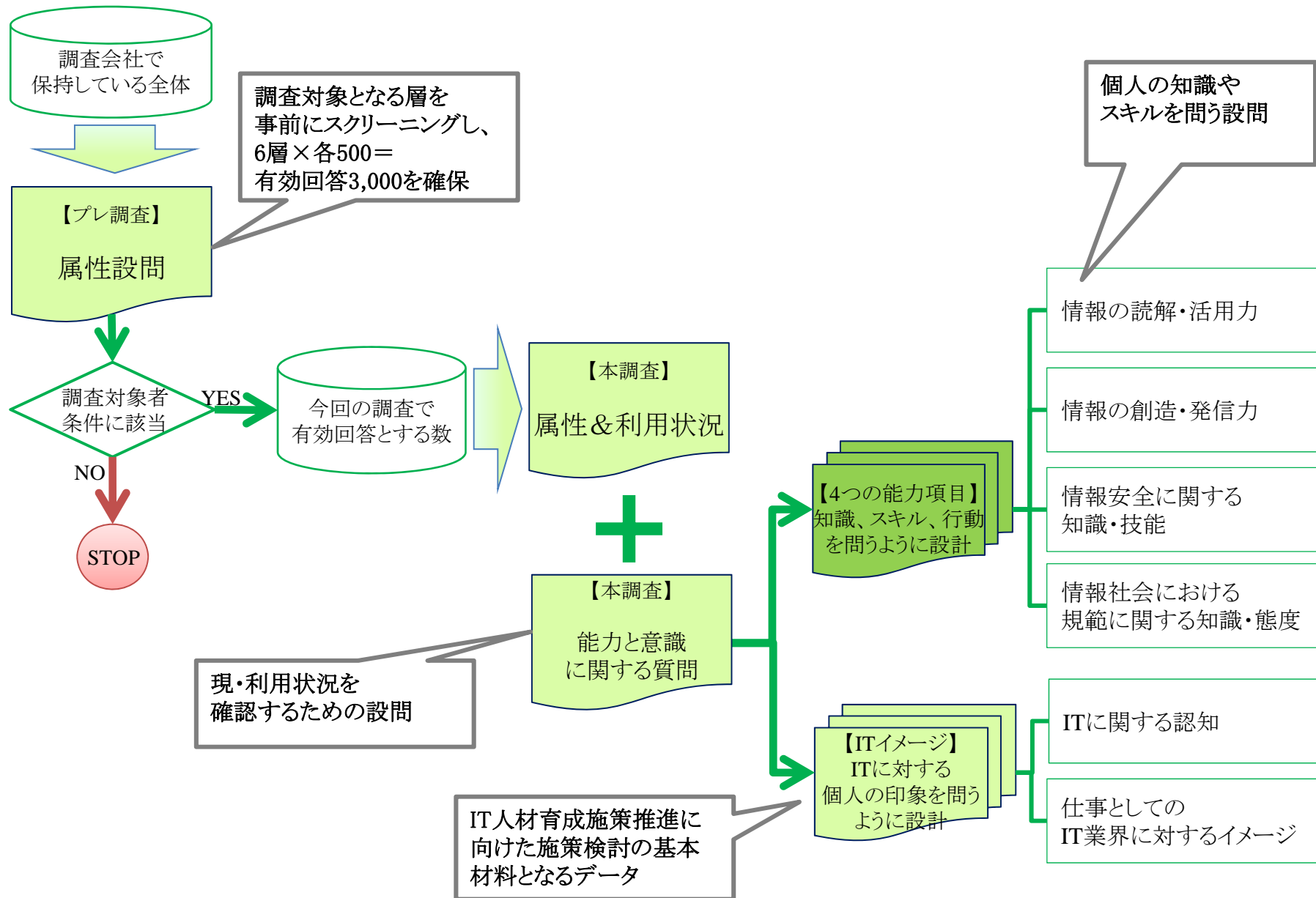
大学生は一般的に就労する直前であり、就労者の一般的スタート地点を確認するのに適当であると考えたため。

課題④ 高齢者など一部の層は、インターネット利用率の問題などからその層内の特定の層の傾向しか測れない可能性がある。

【対応策】 一部、紙ベースでの訪問留置調査とし、参考情報とする。(ピンクでマーカーを入れた部分)

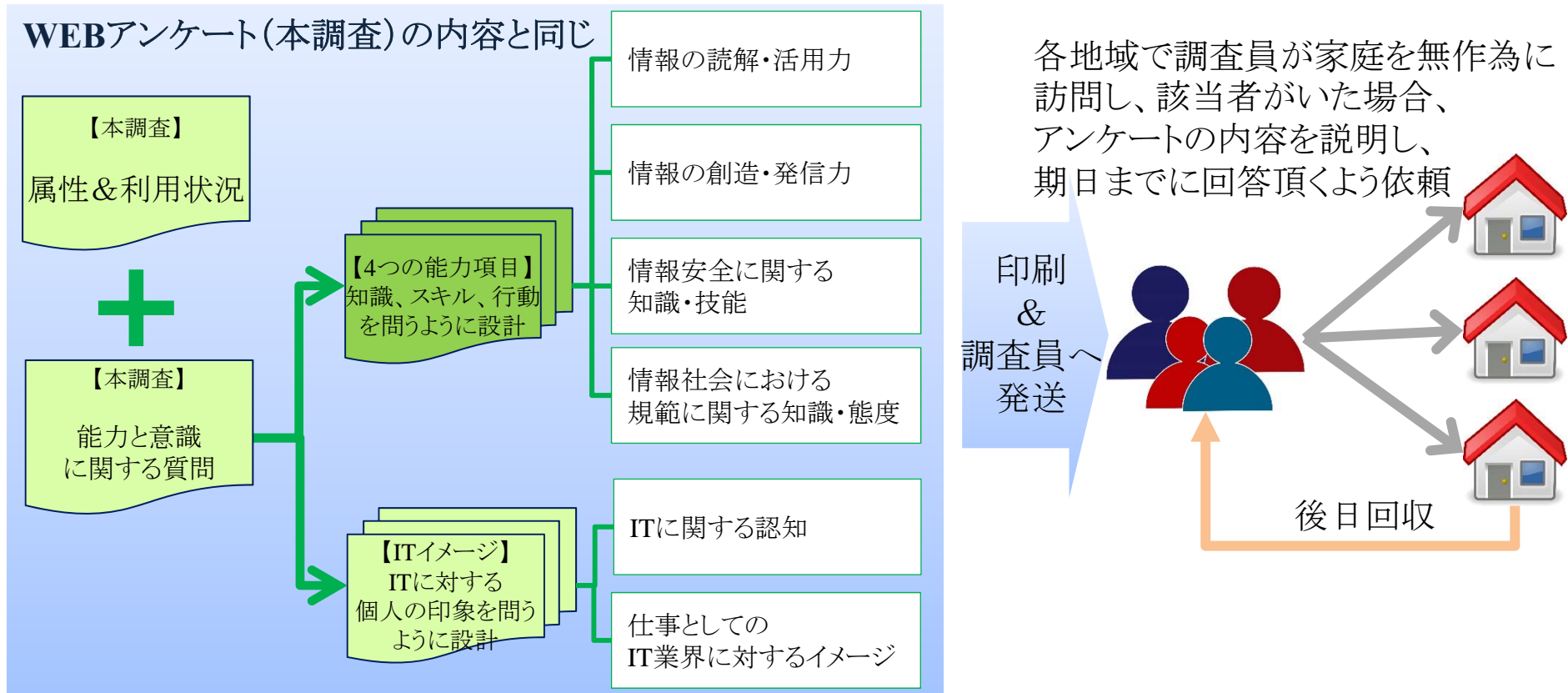
4.国民全体の「情報の利活用力」に関する調査

②WEB調査の基本設計



4.国民全体の「情報の利活用力」に関する調査

②訪問留置調査



※ 訪問アンケート実施地域(地域を無作為抽出) ※

地域	都市部	人口20万未満の市
北海道	札幌市 豊平区	小樽市
東北	仙台市 青葉区	会津若松市
関東	世田谷区、横浜市 鶴見区	館林市、小平市、秦野市
東海	名古屋市 中川区	桑名市、袋井市
京阪神	大阪市 城東区、神戸市 北区	池田市、川西市、橋本市

③プレ調査の設問内容

プレ調査設問票（案）

・・・属性情報から、今般のアンケート回答資格がある方に絞り込む。

事前登録情報でわかるもの：年齢、性別、居住都道府県

Q1. あなたは自分の第一子（一番年上の子ども）と

同居していますか。同居している場合は、そのお子さんの
学校・学年を選んで下さい。

※ 中学・高校生に回答を求めるための設問（理由：調査会社に登録されているのは15歳以上だが、10代の登録はかなり少ないため、登録している保護者から子どもへの回答依頼につなげる。）

Q2. あなたの現在の職業について以下の中から選んで下さい。

Q3. あなたの勤務先の業種について以下の中から選んで下さい。

Q4. 【自分の同居第一子（中学2年生、高校2年生）と同席し、
本人入力または保護者が代行入力することの事前許諾】

4.国民全体の「情報の利活用力」に関する調査

④本調査設問設計の基本方針

「方針」に示された4つの能力項目 × 知識、スキル、行動の切り口で測るアンケートとする。

能力項目	定義
① 情報の読解・活用力	ITを利用して得られた情報を正確に読み解き、適切に活用する力
② 情報の創造・発信力	情報を整理・統合し、新たに創造した情報を伝達する範囲や受け手への影響などを考え、ITを利用して発信する力
③ 情報安全に関する知識・技能	情報社会において情報やITを安全・安心に利活用するために必要な知識・技能で、情報セキュリティに関連した内容を含む
④ 情報社会における規範に関する知識・態度	情報社会における正しい行動や安全な行動、望ましい態度の基となる知識や態度で、現行の学校教育において「情報モラル」や「情報倫理」として指導される内容を含む

注) 既存の調査などで確認できる内容は、本調査設問には含まないこととする。

4.国民全体の「情報の利活用力」に関する調査

④4つの能力を確認するための設問

利用状況と利活用レベルの
クロスで考えるためのデータ取得

IT機器の利用状況
機材、目的、頻度
に関する設問

Q4

Q5~9
※Q4に依存

今後の啓発活動などの提案につなげ、
意識変化を経年でとる

IT関連企業・職業に
対するイメージ
に関する設問

Q10~12

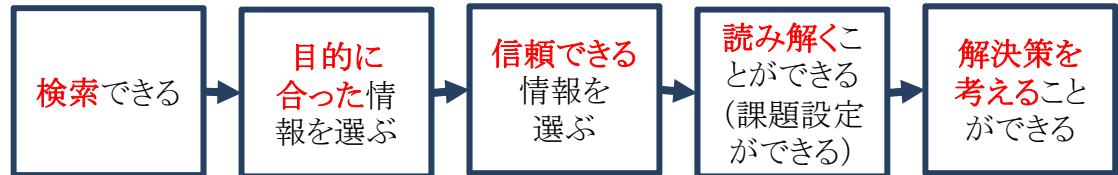
Q13
※記述方式

「方針」で示す情報の利活用力に関する
現状把握のためのデータ取得

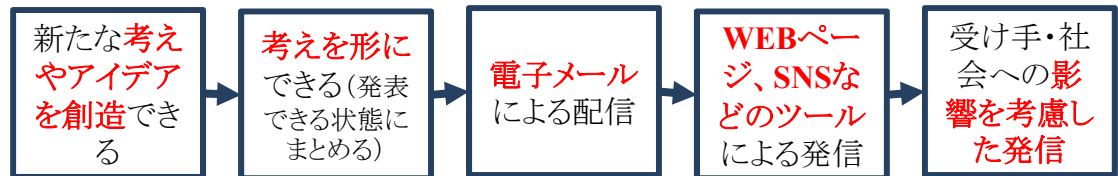
「方針」で示した
情報の利活用力を
確認するための設問

Q14~17
※各項目に対し
5つの設問

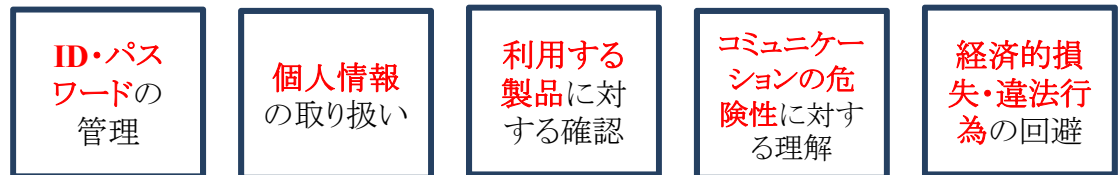
① 情報の読解・活用力 (Q14)



② 情報の創造・発信力 (Q15)



③ 情報の安全に関する知識・技能 (Q16)



④ 情報社会における規範に関する知識・技能 (Q17)



※Q●の表記は、Webアンケートの設問番号を示す。

4.国民全体の「情報の利活用力」に関する調査

⑤各項目の具体的設問内容

Q14	1. 必要な情報をインターネットで探すことができる
	2. 集めた複数の情報から目的に合った情報を選ぶことができる
	3. 集めた情報を別の情報あるいは他の情報源から得た情報と比較して、信用できるものを選ぶことができる
	4. 集めた情報の傾向や特性などを読み解くことができる
	5. 課題を解決するために必要な情報を集めて、解決策を考えることができる
Q15	1. 電子メールなどの情報発信サービスを利用して、自分の考えやアイデアを伝達したり共有したりできる
	2. Webページなどの情報発信サービスを利用して自分の考えやアイデアを伝達したり共有したりできる
	3. 情報の受信者や社会への影響を考慮して情報発信ができる
	4. 集めた情報をプレゼンテーションソフトなどでまとめ、表現・発表することができる
	5. 複数の情報を整理統合し、それをベースとして新たな考えやアイデアを創造することができる
Q16	1. IDとパスワードによる個人認証の機能や役割を理解し、これらを自分以外の人に教えないなど、適切に管理できる
	2. 自分や他人の個人情報など、重要な情報の扱い方を理解し、インターネットを利用できる
	3. アプリケーションソフトをダウンロードしたりインストールしたりするにあたって、その製造元や配布元を確認するなど、注意することができる
	4. SNSなどを利用する際に、相手の見えないコミュニケーションの危険性を理解し、情報の受発信を行うことができる
	5. インターネット上での売買や契約のトラブルなどについて知り、経済的な損失や違法行為に注意することができる
Q17	1. インターネット上の不適切なサイトや有害なサイトへアクセスしないように注意することができる
	2. 文章などの著作物には著作権があること、それを尊重することは大切であることを理解し、無断でそれらをコピー、改ざんしないようにすることができる
	3. 無断で人の写真を撮影したり安易にインターネット上に公開したりすることの問題を理解して適正な行動をとることができる
	4. インターネットで知らない人と約束することには危険があることを理解し、安易な判断による約束をしないようにすることができる
	5. SNSやブログなどでインターネットに書き込みをする際に人を傷つける発言や無責任な発言をしないようにすることができる

参考: WEBアンケート画面のイメージ

Q14 以下に示した1～5について選択肢1～4でお答え下さい。
【必須入力】

	1 かなりできる	2 多少できる	3 あまりできない	4 ほとんどできない
1. 必要な情報をインターネットで探すことができる →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 集めた複数の情報から目的に合った情報を選ぶことができる →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 集めた情報を別の情報あるいは他の情報源から得た情報と比較して、信用できるものを選ぶことができる →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 集めた情報の傾向や特性などを読み解くことができる →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 課題を解決するために必要な情報を集めて、解決策を考えることができる →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

5. 今後の活動

